

平成24年度 大阪市博物館協会外部評価【シート1・2】委員総括コメントへの措置状況(大阪文化財研究所)

		指摘事項	措置状況
【シート1】 運営状況 (総括)		①変動の大きい事業量、収入額等に適切に対応できる態勢づくりを要望。 ②職員の年齢構成に偏りがあるため、組織の経験と知識、技術、人脈等を次世代に伝えるため中長期的視点に立った人材育成の検討が必要。	①・②大阪市における博物館施設の経営形態、埋蔵文化財行政再編の検討にあわせて、新たな業務形態や人員配置について大阪市教委と調整中である。 ③指摘には無いが、東日本大震災復興支援のため、発掘調査を担当する学芸員1名を25年度1年間、福島県に派遣した。26年度も継続中である。
【シート2】 各館・所の特徴	「館の強み」の認識	①歴博とは役割分担を明確にしつつ、さらに強固な連携協力関係を期待。	①歴博とは25年特別展「大阪遺産難波宮」、H26特別展「発掘された近世都市大坂(仮称)」、ほか特集展示で共催し、発掘調査と研究の成果を博物館で展示する機会を増やしている。
	「館の弱み」の認識	①歴博など他館との連携強化や展示施設での資料公開は重要。HPへ関連事業や資料公開状況の公表・周知を。 ②事業費については、外部資金の獲得や他機関との連携による確保を。	①協会連携事業である25年特別展「再発見！大阪の至宝」に難波宮関連資料を出品し、また、他の協会連携事業でも出土品を展示してHPやチラシなどで共同広報を行った。 ②25年度まで3年間文化庁の補助金を活用して情報公開や教育普及事業を実施した。今後も必要な事業費確保のため外部資金確保に努めたい。
	「環境の変化」の認識	①府・市統合など不透明な状況だが事業規模に必要な専門職員の配置計画を検討し、計画的な能力開発を。 ②引き続き外部資金による共同研究を行い、調査成果の管理、活用方法についての研究開発を期待。	①大阪市における博物館施設の経営形態、埋蔵文化財行政再編の検討にあわせて、新たな業務形態や人員配置について大阪市教委と調整中である。 ②大阪市立大学などと難波宮や大坂城をテーマとした共同研究を継続している。また、調査成果を地理情報システム(GIS)に結合して研究所内で活用できるようデータの更新と整備を継続している。
	指定管理期間の成果	①今後も歴博など博物館との連携展示とHP活用により、調査研究成果の体系的な発信を。	①25年度も現地説明会、歴博での無料・有料展示、文化財情報誌『葦火』、HP、市民向け連続講座などの多様な方法で研究成果の公表を行った。今後、HPや一般向け普及図書などでさらに文化財情報を公開していきたい。
	今後の課題	①組織の経験と知識、技術、人脈等を次世代にどう伝えていくのか、真剣な検討を。 ②写真・図書類のデジタル・アーカイブス化を要望。発掘調査報告書の電子化と公開の促進のため、遺跡リポジトリへの全面的な参加を。所管する大阪市教育委員会においても積極的に進めて頂くことを期待する。	①大阪市における博物館施設の経営形態、埋蔵文化財行政再編の検討にあわせて、新たな業務形態や人員配置について大阪市教委と調整中である。 ②発掘調査報告書は、25年度刊行の全てを電子ファイルで作成し、研究所内ではPDFファイルなどで活用している。遺跡リポジトリなどインターネットへの公開は大阪市教委の了解が必要とされるため、引き続き協議中である。

平成24年度 大阪市博物館協会外部評価【シート3】委員総括コメントへの措置状況

大阪文化財研究所

事業区分	指摘事項	措置状況
1 資料の収集、保存、活用	<p>①飽和状態の保管庫について、教育委員会との協議を含め抜本的対策が必要。引き続き積極的な出土品の外部貸出対応を期待。</p> <p>②新規図書の円滑な登録に留意を。</p> <p>③発掘調査報告書について、長期的には大学図書館等と連携した電子化・一般公開の検討を。</p> <p>④HPに講演会情報等の積極的な発信を。過去の開催記録の掲載等、データベースとしての機能向上も期待。</p>	<p>①当研究所にある保存科学部門に併せて出土品・写真・図書の資料保管と活用を担う施設として、「文化財保存センター」の設置を大阪市教委と調整している。</p> <p>②登録要員を一定期間増員した結果、滞っていた図書の登録作業はほぼ解消し、配架まで終了した。</p> <p>③引き続き大阪市教委と協議中である。</p> <p>④講演会までは及んでいないが、過去の現地説明会(2000年～)と当日資料(PDF)をHPで公開、ダウンロードできるようにした。</p>
2 調査・研究	<p>①研究所の業務と成果を市民に広く周知するため、発掘情報や発掘調査報告書の閲覧情報のHP掲載を。また報告書の電子媒体による公開を。</p> <p>②研究所が開発した新たな保存技術について、市民へわかりやすい解説の機会を期待。</p>	<p>①報告書の刊行情報はHPにて随時更新しているが、報告書の電子媒体による公開や発掘情報のHP公開は大阪市教委の了解が必要であり、引き続き協議中である。25年度3月に行った大坂城跡(豊臣期石垣公開)現地説明会については、市教委の了解を得て、石垣を詳細に撮影した動画を後日公開することができた。</p> <p>②「文化財保存センター」を設置することで保存科学部門による教育普及活動が実現できるよう大阪市教委と調整中である。</p>
3 展示(常設展示、特別展)、来館者サービス		
4 教育普及、学習支援、友の会、ボランティア	<p>①歴博との連携によるシリーズ展示について、固定ファンを増やす内容と広報を工夫し、継続を。</p> <p>②HPでの広報は、閲覧者のイメージアップに写真を付ける等の工夫を。また、歴博や天守閣、市内各所の研究所の発掘調査成果の公開事業については、研究所や協会のHPで紹介を。</p> <p>③歴博内に研究所の活動を周知するパネルを。</p> <p>④教育普及事業について、多様な方法で周知し、新たな参加者層の確保を。</p>	<p>①～③顕著な改善に至っていないが、②の市内各地の展示コーナー(街角ミュージアム)はHPで公開できるように25年度からコンテンツを制作中である(26年度公開予定)。</p> <p>④金曜歴史講座は、ダイレクトメールの更新を通じて、参加固定層の新規獲得に成功。個別地域への重点宣伝も効果があり、参加者は増加した。</p>
5 学校等との利用促進、学校教育支援		
6 広報・宣伝、情報公開と発信	<p>①定期購読者が減少する一般向け文化財情報誌について、電子媒体化を含め今後の在り方の十分な検討を。</p> <p>②新規参加者の開拓のため、効果的な情報発信方法の検討を。</p>	<p>①・②25年度の金曜歴史講座では、ダイレクトメールの更新を通じて、新規参加者をはじめ、個別地域への重点宣伝も効果があり、参加者は増加した。『葦火』定期購読者は、各講座・書店(ジュンク堂)販売・リレーウオーク等で宣伝した結果、ほぼ横ばいであった。</p>
7 地域、市民、関連機関との連携・交流	<p>①「関西考古学の日」での取組みについて、研究所HPでも掲載を。</p> <p>②国際交流の成果について、研究所のHPで情報発信を。</p> <p>③スタッフに海外での調査、研究、交流の機会の提供を。</p>	<p>①個別のイベント案内にとどまっているため、今後工夫したい。</p> <p>②大韓民国の(財)嶺南文化財研究院との交流成果を博物館協会HPで公開した。</p> <p>③25年10月15-18日に(財)嶺南文化財研究院へ学芸員3名が研修出張した。</p>
8 施設の整備、維持管理、リスクマネジメント		
9 運営・マネジメント	<p>①スタッフの業務量、業務内容を十分把握し、人的体制、雇用の在り方について中長期的な視点から検討を。</p> <p>②業務量と収入が安定する方策について十分な検討を。</p>	<p>①・②では、受託量に応じて適当な発掘調査・報告書作成の人的体制となるよう調整している。今後は大阪市の埋蔵文化財行政の再編に合わせて、新たな業務形態となるよう大阪市教委と調整中である。</p>

<p>10 a ※各館の特性がでる ように、この項目を活用する。</p>	<p>①「なにわ活性化実行委員会」事業について、制作したコンテンツを十分活用し、適時適切な更新を。 ②難波宮と上町台地の歴史的な重要性を市民へ浸透させるよう、更なる努力を期待。</p>	<p>①「なにわ活性化実行委員会」事業はH25年度末で一区切りとなり、コンテンツの追加や外国語対応、広報宣伝などを行った。今後も情報の追加や更新を行いたい。 ②上記事業の一環としてH25年度もリレーウォーク事業・難波宮フェスタ事業を行った。これらは参加者やスタッフからの強い要望もあり、H26年度も継続し、難波宮と上町台地の重要性を伝えていく予定である。市民団体どうしの連携と活性化にもつながり、長く続けたい。</p>
---	---	--